

## ソウル大学校商科大学附設韓国経済研究所

The Institute of Economic Research, College of Commerce, Seoul National University

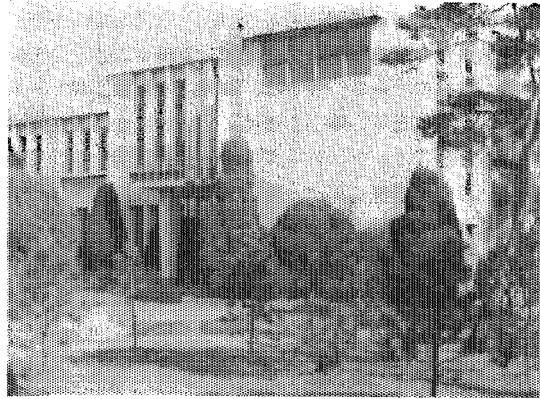
さくら 井 浩

ソウル市の中心部市庁舎の近辺から、市の北方議政府方面に通ずる道路を、市内バスにゆられておよそ30分ほど行くと、ソウル大学校商科大学の所在地城北區鍾岩洞につく。ソウル市はさらにここからバスで30分くらい北方まで広がっている。10年くらいまえまでは鍾岩洞あたりはまだまだ畑が多かったそうである。が、ソウル市の急速な人口増加にともない、つぎつぎと住宅やアパートがたち1968年頃にはもう畑らしい畑はみられなくなっていた。小高い山の山腹に高い石垣をつんで宅地が上の方にのびていっている。こんな変わりゆく鍾岩洞の一隅、松林にかこまれた商科大学は質素なたたずまいをみせている。正門と道路一つへだててあった広い空地にも、この2年ほどの間に住宅や石油スタンド、大きな市場などができてほとんど埋めつくされた。キャンパスの後側ほどなくのところに川があり、その向こう岸にはソウルと江原道春川を結ぶ鉄道が走っていて、日に何べんか3～4輛編成の電車が通る。

正門をはいると右側にグラウンド、左側に商大本館、附設研究所、講堂などの建物がある。比較的広いグラウンドの一部は貸与され、バラなど季節の花がたくさん栽培されてキャンパスに色どりをそえる。本館の前には小さな植込みがつくられていて、その端にまた植込みにかくれてしまいそうな小さな墓標一つあった。1960年の「4・19革命」で犠牲になった学生のものだった。零下15～16度に達する厳寒の冬が終わり、春の花も咲きはじめてソウル市民もほっとする頃毎年4月19日には、この小さな墓標に花束がささげられる。

### 韓国経済研究所の沿革

1967年の後半期、韓国科学技術処が、社会科学関係の研究機関の実態調査を行なった。その報告書は「解放以前には、日本帝国主義の植民政策上、社会科学に対する研究が大きく抑制されていた」こと、解放後は研究方向を模索中に6・25の動乱をむかえ、休戦後も経済復興が達成されるまで、社会科学の研究がほとんど行なわれない状態にあったことを指摘したのち「5・16革命以後、



経済開発計画を強力に推進するようになるにともない、経済発展過程に随伴する社会のあらゆる部門での問題点と矛盾点が顕在化するようになり、こうした問題を解決し……より早く、より健全な発展の道を模索するために自然科学の研究開発とともに社会科学に対する研究が切実に要請されるに至った」と述べている。

こうした事情から、1960年代には「研究所ブーム」といわれるほど多くの社会科学関係の研究所が設立され、1960年には19だったのが1967年には72に達した。もちろん設立の主体はさまざまで、国や地方公共団体が設立したものの17、国公立の大学が9、私立大学26、民間20などとなっている。

ソウル大学の韓国経済研究所は、1961年4月1日「国立学校設置令」によって商科大学の附設研究所として設置された。当時はまだ「研究所ブーム」などといわれていなかったと思われる。初代所長は崔文煥商科大学長（現在ソウル大学総長）で、1966年3月第2代所長朴喜範学長（当時）にバトンタッチするまでの約5年間に、現在の研究所の原型ができあがったといっただけであろう。第2代所長はその後1968年文教部次官として転出し、現在は辺衡尹教授が3代目所長をひきうけている。

韓国経済研究所が発足して9年余り、この間研究所にとって大きなできごとといえば、発足後間もない1963年4月、産業経営研究部が分離独立して経営研究所となったことであろう。商科大学にはこの他に貿易研究所があ

って、三つの研究機関をもっているが、いずれ劣らず活発な研究活動を行なっている。

研 究 業 績

韓国経済研究所はその設立目的として「経済問題に関する理論的、実証的研究を協同的に遂行することにより経済理論の発展と合わせて国民経済の安定および発展策の遂行に寄与することを目的とする」と述べていることからもうかがえるとおり、その研究分野はきわめて広範である。研究成果は主として機関誌『経済論集』を通じて発表されている。

『経済論集』は研究所発足の翌1962年『経商論集』として第1号が発刊され、1963年に『経済論集』と改題し、1964年第3巻から年4回ずつ発行して今日にいたっている。他の分野に関しては詳しいことはわからないが、わたくしが関係する韓国農業関係だけに限ってみても、すでにいくつか注目すべき研究や調査報告が掲載されている。

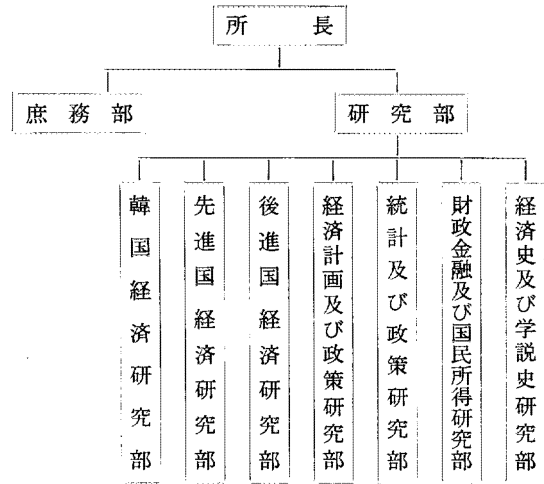
この機関誌のほか研究所発足当初には、アジア財団からの経済研究プロジェクトや経済企画院の委嘱による「国土開発の基本構想に関する研究」(1963年)、「第2次経済開発5カ年計画に関する研究」(1964年)、経済企画院とUSOMの委嘱による「韓国食糧自給化に関する研究」(1964年)などが行なわれている。また、不定期刊行物として1964年以後「研究総書」や経済史あるいは低開発国開発論などの論文を抜萃した“Selected Articles Series”，さらに1967年からは年1回英文機関誌“Economic Review”を出している。

機構とスタッフ

研究所の機構については別掲の機構図を参照していただく。この図には書かれていないが資料室と資料分析室をもっている。現在研究所にとって一番の頭痛の種は予算が少ないことであろう。1967年度の予算が約240万ウォン(1ウォンは約1.2円)で、これでは資料の購入もほとんどできず、今までのところ、交換や寄贈が中心となっているようである。

研究所の構成員は庶務部が4名、研究部は約30名で、この研究員はすべて商科大学の先生である。したがってほとんどの研究員が、日本などの大学の先生にくらべてかなり多くの講義を受け持っているほか、経営研究所や貿易研究所にもそれぞれ参加しているわけである。そ

韓国経済研究所機構図



れ故、非常に多忙であり、かつ先ほど述べたように研究条件もけっしてめぐまれていないので、上述のような研究活動を続けていくうえでの困難は並大抵ではないと思われる。

こうした困難を克服せしめている一つの要因は、一、二の所員をのぞいて、大部分30代、40代という比較的若い、働きざかりの研究者によって構成されていることにあると考えられる。韓国の社会科学研究機関の研究員の年齢構成が、一般に比較的若いことは、さきほどの科学技術処の調査報告が指摘しているが、韓国経済研究所の場合は特に30代、40代に集中しているのが特徴である。

また、もう一つ別の要因をあげるとすれば、ある先生が語っていたことであるが、韓国の経済学会の活動が年1回の機関誌を発行する程度であり研究上で積極的な役割を果たしえない現状であり、韓国経済研究所が中心となって、韓国の経済学を背負っていかなくてはならないという意気込みあるいは情熱といったものではないかと思う。これは1人の先生から聞いた言葉であるが、おそらく、他の先生も同じように考えてがんばっているのではないかと思われる。

わたくしは、今年の2月まで満2年間、この研究所に滞在し、研究上のことだけでなくいろいろと、所長をはじめ研究所の皆さんに大変世話になった。今後韓国経済研究所がますます発展することを祈るとともに、この場であらためて研究所の皆さんに感謝の意を表したい。なお最後に『経済論集』の創刊号から1969年第八巻第4号までの論文目録を紹介し、参考に供したい。

研究機関紹介

『経済論集』掲載論文・研究ノート目録  
(第Ⅰ巻第1号～第Ⅷ巻第4号)

題名	巻号
論文	
工業生産形態に関する研究……………黄炳峻…Ⅰ-1	
後進国における内資の調達と その産業別配分(其一)……………朴喜範…Ⅰ-1	
地方税の諸形態とその現代的機能…車軒権…Ⅰ-1	
フォレットの「情況の法則」に 関する考察……………沈炳求…Ⅰ-1	
企業家活動と経済発展……………姜命圭…Ⅰ-1	
利子の原価性に関する考察……………蘇真徳…Ⅱ-1	
Integrated Marketing Approach の合理性に関する一論拠……………金元銖…Ⅱ-1	
韓国企業の収益性と生産性 成果配分に関する諸問題……………白永勳…Ⅱ-1	
韓国会計監査制度の改善方向……………姜永福…Ⅱ-1	
韓国経済と地域構造……………呉万植…Ⅱ-1	
「Clark-Hoffmann の経済発展類型」 の後進国に対する適用の問題……………李賢宰…Ⅱ-1	
わがくにの物価構造の分析(其一)…羅雄培…Ⅱ-1	
韓国炭鉱労働の分析……………丁炳然…Ⅲ-1	
わがくに地方財政制度の近代化 過程とその性格……………車軒権…Ⅲ-1	
不平等深化過程の展開としての韓国 の工業化, 1910~1964(其一)……………林鍾哲…Ⅲ-1	
わがくにの物価構造の分析(其二)…羅雄培…Ⅲ-1	
Sellers Income Effects and Unstable Equilibrium: A View of the Korean Rice Market……………Daniel H. Garnicu…Ⅲ-1	
後進国労使関係の形成とその分析 (其一)……………金植鉉…Ⅲ-1	
商品学とマーケティングの相互 依存性……………金元銖…Ⅲ-1	
中小企業の残存理論に関する考察…黄炳峻…Ⅲ-2	
後進国経済政策のいくつかの根本 問題に関して……………姜浜口…Ⅲ-2	
18世紀英国の地主と農業……………金宗炫…Ⅲ-2	
組織の基礎理論研究……………羅雄培…Ⅲ-2	
韓国輸出商品の長期的輸出可能性 に関する商品学的考察(其一)……………金元銖…Ⅲ-2	
開城簿記の様式と記帳法に関して…李常薰…Ⅲ-3	

Marine Products Marketing

Company ………………呉相洛…Ⅲ-3
韓国輸出商品の長期的輸出可能性 に関する商品学的考察(其二)……………金元銖…Ⅲ-3
韓国経済の資本蓄積過程と財政 金融政策, 1953~1963……………洪性囿…Ⅲ-3
不平等深化過程の展開としての 韓国工業化, 1910~1960……………林鍾哲…Ⅲ-3
後進国における内資の調達とその 産業別配分(其二)……………朴喜範…Ⅲ-4
韓国の賃金……………辺衡尹…Ⅲ-4
韓国地方財政の変遷とその時代的 特徴, 1910~1940……………車軒権…Ⅲ-4
非公式組織に関する人間関係論的 考察……………姜浜口…Ⅲ-4
マックス・ウェーバーの理念型に おける問題点……………崔文煥…Ⅳ-1
英国ヨーマンに関する一研究 (其一)……………金宗炫…Ⅳ-1
韓国輸出商品の長期的輸出可能性 に関する商品学的考察(其三)……………金元銖…Ⅳ-1
韓国輸出の趨勢と予測……………辺衡尹…Ⅳ-2
地方交付税および国庫補助金 制度の実態と財政的公平……………車軒権…Ⅳ-2
市場調査機能と予算統制機能の 有機的関連性……………金元銖…Ⅳ-2
韓国工業の成長率分析……………黄炳峻…Ⅳ-3
市場調査論の体系化方向……………金元銖…Ⅳ-3
英国ヨーマンに関する一研究(其二)…金宗炫…Ⅳ-3
古典学派における農業地代論と 価値法則—Samuelsonの「リカ ード土地価値説」について……………慎鏞廈…Ⅳ-3
地方経費の諸形態と事業効果, 1951~1960……………車軒権…Ⅳ-4
後進国労使関係の形成とその分析 (其二)……………金植鉉…Ⅳ-4
成長経済学の系譜(其一)……………李忠孝…Ⅳ-4
日本植民地統治の経済的遺産に 関する研究……………安秉直…Ⅳ-4
ロストウ史観の批判——近代化 問題を中心に——……………朴喜範…Ⅴ-1
新しい再生産表式の構想——経済学 における二つの戦線(対マルクス 対ケインズ)……………林元沢…Ⅴ-1

- リーベルマン論争と実際……………姜 浜 口…V-1  
 外部報告のための直接原価計算の  
 問題点……………李 正 浩…V-1  
 経済学における要因分析の適用……………辺 衡 尹…V-2  
 韓国地方歳入制度に関する考察  
 —1950年代の地方税制を中心  
 として……………車 軫 権…V-2  
 A Study of Changes in the  
 Structure of Manufacturing  
 Industry and in the Trade  
 Pattern of Manufactured  
 Products in the East Asian  
 Developing Countries: Part I ……洪 元 卓…V-2  
 Unfair Labor Practice in the  
 East Airlines Corporation……………黄 炳 峻…V-3  
 マーケティング機能に関する  
 分析的研究(序説)—特に企業  
 目的との関連で……………金 元 鉄…V-3  
 韓国の地主制度に関する一研究  
 (其一)—日帝下の土地小作制  
 度について……………慎 鏞 厦…V-3  
 A Study of the Changes in the  
 Structure of Manufacturing  
 Industry and in the Trade  
 Pattern of Manufactured  
 Products in the East Asian  
 Developing Countries: Part II……洪 元 卓…V-3  
 経済発展と経済体制……………朴 喜 範…V-4  
 わがくにの租税負担に関する考察  
 —所得階層別国内消費税の負担—…車 軫 権…V-4  
 地方財政調整に関する考察—1950  
 年代を中心に……………車 軫 権…VI-1  
 李朝末期の「賭地権」と日帝下の  
 「永小作」の関係—小作農賭地  
 権の所有権としての成長と没落  
 について……………慎 鏞 厦…VI-1  
 わがくにの工業化進展率と工業化  
 段階……………黄 炳 峻…VI-2  
 韓国の農業労働に関する一考察  
 —全羅南道靈光郡下3個部落  
 の調査を中心に……………丁 炳 然…VI-2  
 Toward a Sound Manpower  
 Utilization in Organization—  
 Case Study of Keystone Mutual  
 Fund Co., Inc.……………徐 相 竜…VI-2  
 韓国の経済成長、雇用および賃金…辺 衡 尹…VI-3  
 Basic Issues in Social Security  
 Programs ………………方 甲 洙…VI-3  
 近代英国農業の展開と経済成長……………金 宗 炫…VI-3  
 韓国の産業構造……………辺 衡 尹…VI-4  
 The Growth of Productivity in  
 Agriculture and Its Implications  
 to Agricultural Policies……………趙 淳…VI-4  
 植民地下の朝鮮国際収支と資本  
 輸出入(1910~1945)(其一)……………安 秉 直…VI-4  
 在庫資産原価配分に関する考察……………李 庸 俊…VI-4  
 韓国の経済成長過程における国民  
 所得構造変動に関する研究……………李 賢 宰…VII-1  
 帝国主義経済理論の批判—H・J・  
 モーゲンソー理論を中心に……………呂 井 東…VII-1  
 英国経済衰退の諸原因に関する  
 研究(其一)……………姜 命 圭…VII-2  
 植民地下朝鮮の国際収支と資本  
 輸出入(1910~1945)(其二)……………安 秉 直…VII-2  
 株式会社の機関に関する研究  
 —韓国商法上の問題点を中心に—…崔 基 元…VII-2  
 韓国経済開発計画の方向—第2次  
 5 個年計画を中心に……………呉 相 洛…VII-3  
 帝国主義経済理論に関する理論的  
 検討—J・A・シュンペーター  
 理論と比較して—……………呂 井 東…VII-3  
 国際通貨の新準備資産についての  
 考察……………閔 丙 久…VII-4  
 主要輸出商品の比較優位分析—  
 主要品目の Relative Share Index  
 を中心に……………林 鍾 哲…VII-4  
 工業化過程の社会における伝統と  
 合理性……………金 晋 均…VII-4  
 有効競争論の研究……………丁 炳 然…VII-1  
 The Feasibility of Regional  
 Economic Integration in The  
 Far East……………朴 宇 熙…VII-2  
 India as a Late Beginner—With  
 Emphasis On Her Five-Year  
 Planning—……………金 淳…VII-2  
 韓国産業構造の特徴—1966年産業  
 連関表を中心に……………辺 衡 尹…VIII-3  
 日帝末韓国の工業化に関する一考察…林 鍾 哲…VIII-3

英国経済衰退の諸要因に関する 研究(其二)……………姜 命 圭…Ⅷ-4	重商主義に関する小考……………金 秀 行…Ⅵ-3
Patterns of Production and Trade in a Two—Sector Neoclassical Growth Model—A Dynamic Model of Trade and Growth ……洪 元 卓…Ⅷ-4	経済発展と利子および利潤に関する —考察—古典学派理論を中心に—…尹 植…Ⅵ-4
研究ノート	インフレーションの原因に関する 理論的対立……………朴 在 潤…Ⅶ-1
経営発展の諸段階……………金 宗 炫…Ⅳ-2	近代化理念と経済発展—ミュル ダールの「アジアのドラマ」 に関連して……………林 鍾 哲…Ⅶ-2
トオニー論……………金 宗 炫…Ⅴ-2	グッドウインの循環的成長模型……………辺 衡 尹…Ⅶ-3
The Unique, Minimum Variance Linear, Unbiased Stepwise Estimator ……………郭 承 榮…Ⅴ-2	農地所有の変動に関する—考察— —1949~1968, 4 個地帯の調 査を中心に—……………袁 茂 基…Ⅶ-4
成長と循環の総合……………辺 衡 尹…Ⅴ-4	現代帝国主義に関する小考—J・ ストレーチ理論を中心に—……………呂 井 東…Ⅷ-1
C E S 生産函数と国際貿易理論……………鄭 基 俊…Ⅵ-1	小農経済理論の新たな展開— N. Georgescu-Roegen と Dandekar の所論を中心に—……………鄭 英 一…Ⅷ-1
わがくに国際収支の長期展望……………呉 万 植…Ⅵ-2	国際通貨制度としての IMF 体制……………朴 在 潤…Ⅷ-2
戦後韓国農地改革に関する—考察—鄭 英 一…Ⅵ-2	最低賃金制度に関する—考察—……………袁 茂 基…Ⅷ-3
産物生産費に関する—考察—……………袁 茂 基…Ⅵ-2	わがくに主要企業の国際競争力……………金 鍾 彬…Ⅷ-4 (調査研究部)
地域経済学の展開……………鄭 基 俊…Ⅵ-2	
外資導入の限界……………朴 宇 熙…Ⅵ-3	
External Economies in Market Equilibrium ……………鄭 基 俊…Ⅵ-3	

アジア経済研究所刊行

海外アルミ資源の開発

西尾 滋編著  
A 5 判/324頁/¥1000

アルミニウム工業の現状と課題を概観し、さらに資源国の開発状況を国別にとらえた好著。アルミニウム工業の現状と課題／アルミニウム製造用原料資源／アルミニウム国際独占資本の資源獲得競争／各論（ラテン・アメリカ／オーストラリア／東南アジア／インド／アフリカ）／その他

援助の実態と経済政策

原 覺 天編著  
A 5 判/274頁/¥850

援助の効果を純粋な経済問題として計量的に捉えることが極めて困難な今日、援助の実態を分析し、その実態に即した総合的な経済政策が追及されなければならない。本書理論篇は援助政策の変遷とその政治・経済的背景を追跡し、実態篇は、インド、パキスタン、台湾の最も中心的な援助プロジェクトの分析を試みた。

アジア経済出版会発売